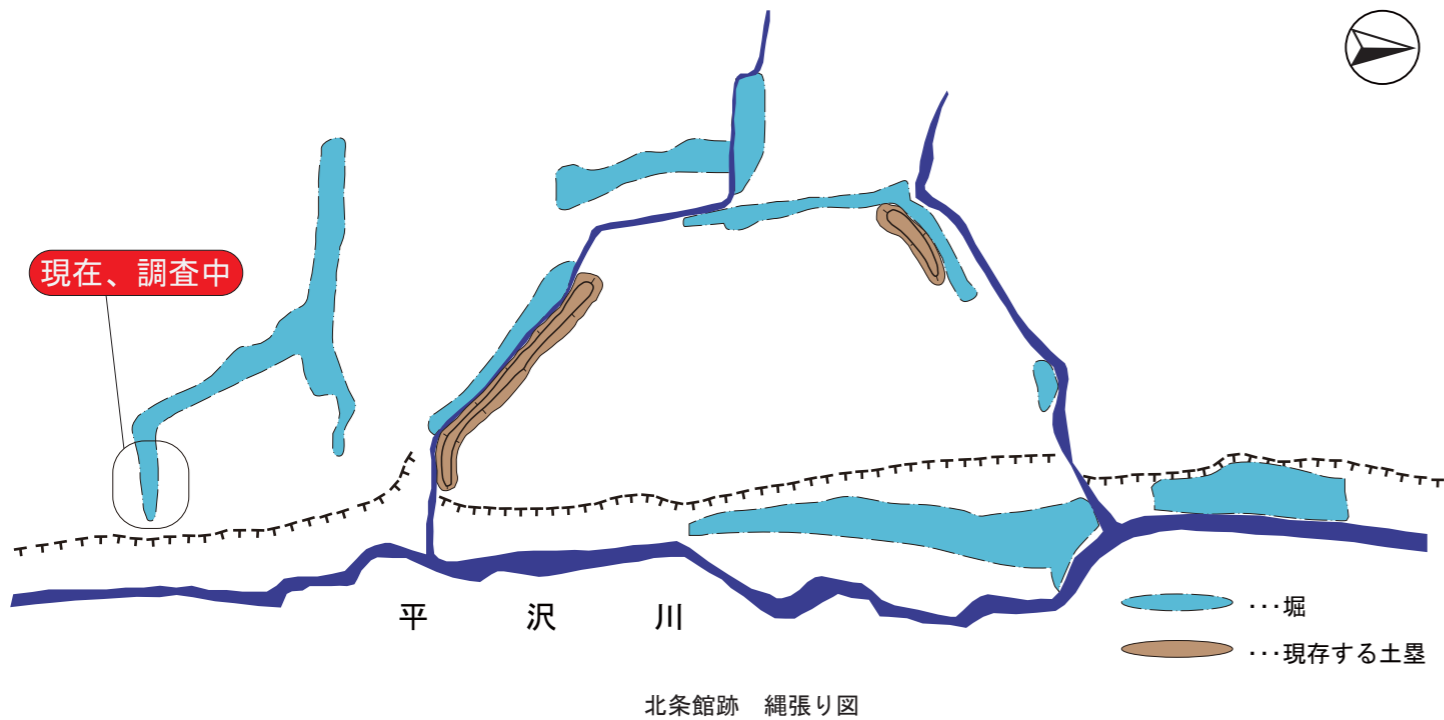


4. 北条館跡について



検出遺構	出土遺物
外堀 1条	中世～近世陶磁器 石製品 (茶臼) 木製品 (曲物の破片など)

北条館跡は、地籍図等から上図のような縄張り図が推定されています。いつの時代、誰の城館であったかなど、実はまだ分かっていません。そもそも「北条館」という名前の由来も現在、調べている最中です。

北条館跡とは？

①「北条館跡＝肥爪城」説

天正 20 年 (1592)、豊臣秀吉が南部信直に命じた、諸城の破却に関する記録 (『南部大膳大夫分国之内諸城破却共書上之事』) に、

志和郡之内 肥爪 平城破

という記載があります。志和 (紫波) 郡で平城と考えられるのは、今回調査している「北条館跡」しか該当しないので、北条館跡は中世の「肥爪城」であったのではないかとする説があります。

②「北条館跡＝樋爪氏の居館」説

平安時代の終わりごろ、紫波地方を支配していたのは、奥州藤原氏の分家にあたる樋爪氏でした。北条館跡と周辺は、その樋爪氏の居館である、「樋爪館跡」ではないかと言われていたことがあります。

現在、「樋爪館跡」は五郎沼の北側に位置する居館跡のことを指します。そして北条館跡は樋爪館跡とは別の樋爪一族の誰かが住んでいた居館跡ではないかとも考えられています。

今後の発掘調査の中で、どの説が正しいのか、明らかになっていくのではないかと考えています。調査では右のような大きな外堀がみついています。



北条館跡 外堀

きたひづめじょうないいち

ほうじょうだてあと

北日詰城内 I 遺跡・北条館跡

発掘調査現地説明会資料

1. はじめに

北日詰城内 I 遺跡の発掘調査を 4 月から、また、北条館跡の発掘調査を 6 月からはじめています。調査自体はまだ半ばですが、本日は現時点での調査成果をご覧頂き、紫波町日詰地区に眠る遺跡の姿を知って頂けたらと思います。

2. 調査要項

北日詰城内 I 遺跡 (KHJ I -18)

所在地：紫波町大字北日詰字城内 234 番地ほか
調査原因：北上川緊急治水対策事業
調査期間：平成 30 年 4 月 16 日～
調査面積：1,190 m²
調査機関：(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
担当者：須原 拓 川村 英
委託者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所



北日詰城内 I 遺跡作業風景

北条館跡 (HJD-18)

所在地：紫波町大字北日詰字城内 105 番地の 2 ほか
調査原因：北上川緊急治水対策事業
調査期間：平成 30 年 6 月 18 日～
調査面積：3,680 m²
調査機関：(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
担当者：川又 晋
委託者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所



北条館跡作業風景

3. 北日詰城内 I 遺跡について

検出遺構

工房跡 3棟
土坑 11基
井戸? 1基
溝 1条

出土遺物

かわらけ
中世～近世陶磁器
縄文土器

現在調査中のため、北日詰城内 I 遺跡の性格はまだ分かりませんが、工房跡が並んでみつかっており、北条館跡に関連する工房群の可能性が高いです。

工房跡は、地面を長方形に掘り込んで作られており、柱穴が並び、床面に火を焚いた跡 (炉) が確認できたものもあります。ただし、遺構内から遺物が出土しないので、何を作るための工房跡かは定かではありません。



工房跡全景写真

北日詰城内 I 遺跡 遺構配置図

2018.07.20 現在

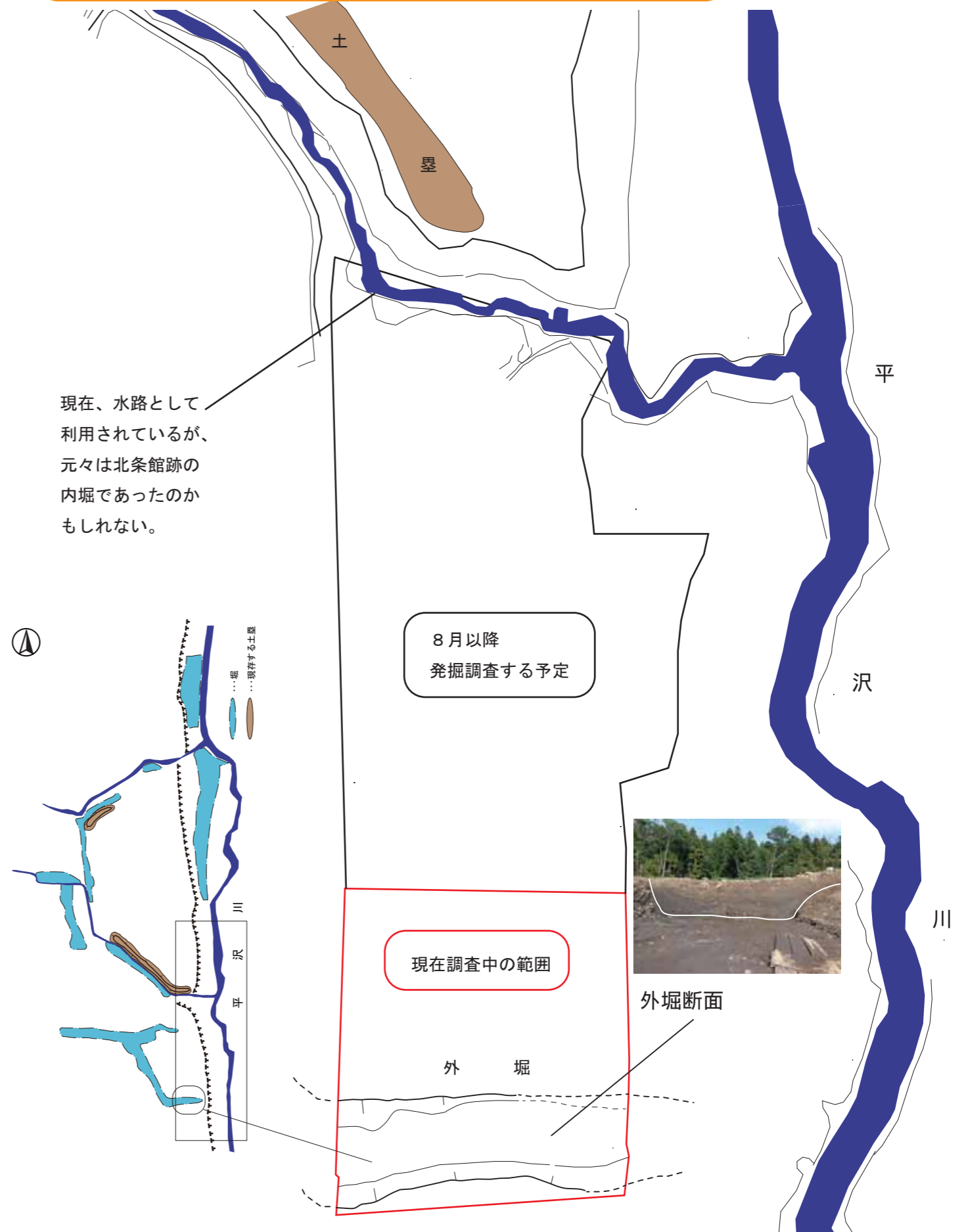


工房跡



北城館跡 遺構配置図

2018.07.20 現在



現在、水路として利用されているが、元々は北条館跡の内堀であったのかもしれない。

8月以降
発掘調査する予定

現在調査中の範囲



外堀断面

外堀